



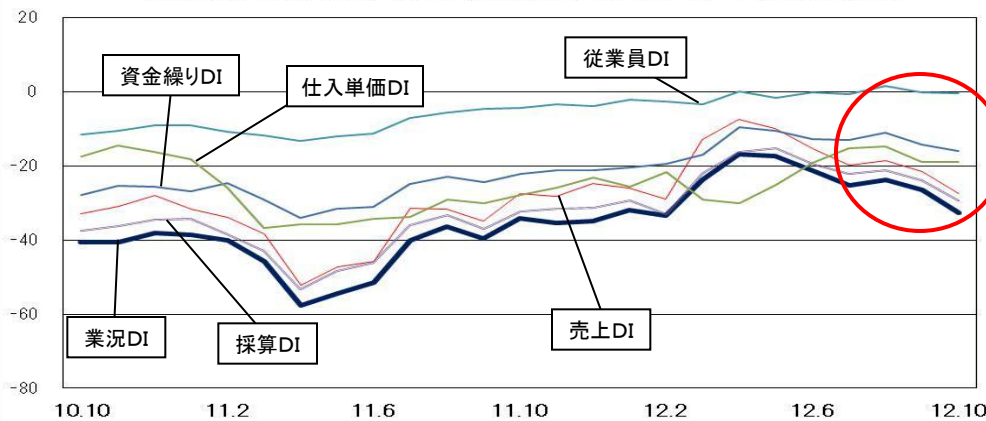
業況DIは、大幅悪化。日中関係による影響が拡大

ポイント

▶10月の全産業合計の業況DIは、▲32.6と、前月から▲6.0ポイントの大幅悪化。中国経済の減速に加え、日中関係の悪化により、自動車をはじめとした日本製品の不買運動に伴う国内メーカーの輸出低迷や減産対応、中国人観光客の急減など、製造業・非製造業を問わず広く影響が及んでいる

▶先行きについては、先行き見通しDIが▲28.9(今月比+3.7ポイント)と、改善する見込み。堅調なスマートフォン関連がけん引することが見込まれるほか、冬物商品の動きが期待されることなどが要因。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。超円高の定着や、穀物・原油価格の高止まりに加え、日中関係の悪化に伴う影響の長期化に懸念が強まっている

LOBO全産業合計の各DIの推移(2010年10月以降)



今年度下期の設備投資の動向

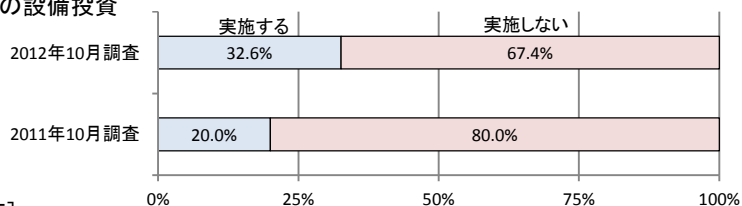
▶今年度下期に設備投資を行う企業(全産業)は32.6%。前回(2011年10月)調査(20.0%)を上回る

▶設備投資の内容をみると「国内で既存設備の改修・定期更新」が60.5%と大半を占めている。これまで設備投資を控えていたことにより、既存設備の改修や定期更新に迫られていることが主因

▶また、「国内で新規設備投資」は35.1%、「海外で設備投資(新規・既存設備の両方を含む)」は4.3%に止まっており、いずれも前回調査(国内で新規設備投資:38.5%、海外で設備投資:6.0%)を下回るなど低調な状況

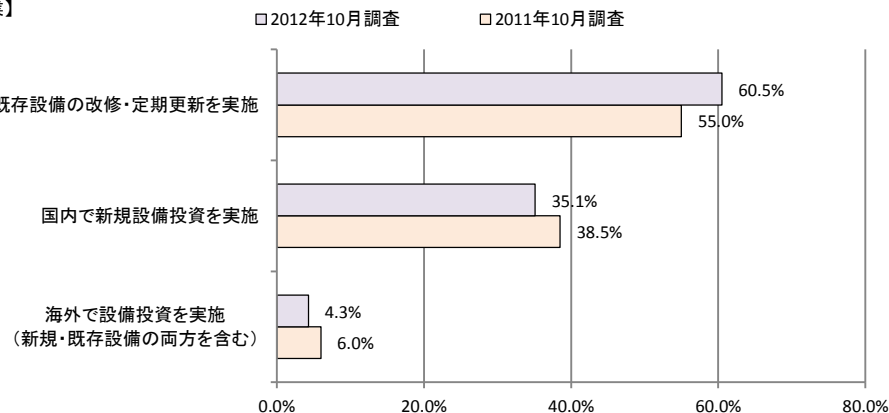
◆今年度下期の設備投資

【全産業】



◆今年度下期の設備投資の内訳

【全産業】



【中小企業の声】

- ▶古くなった機械設備の更新時期だが、先行き不安等もあり、計画を進められない (立川 自動車部品製造業)
- ▶設備投資は、収支のバランスをみて今後判断する。今年度の売上は低迷しており厳しい状況 (金沢 百貨店)
- ▶取引先の海外生産の増加に伴い、自社も海外での生産増強のため設備投資を実施 (名古屋 自動車部品製造業)

- ▶大手企業に追随し、関係する中小企業が海外生産を増やしたことから、国内の設備投資を削減。その影響を受け、自社の受注が減少 (東京 油圧成型機製造業)
- ▶超円高の長期化や海外経済の減速による受注の減少に加え、価格競争の激化、人件費の高騰等により設備投資を行うための利益を確保できない (富山 金属加工機械製造業)